

第3期島根県がん対策推進計画 がん予防(一次予防)ロジックモデル(案)  
★全体目標「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」

資料3

カテゴリ	施策	指標		中間アウトカム	指標		最終アウトカム	指標	
		現状値	目標値		現状値	目標値		現状値	目標値
生活習慣の改善	各圏域ごとにごがん罹患・死亡状況などから重点的に予防に取り組むがん種を決定し、そのがんのリスクとされている生活習慣等の改善に向けた取り組みを強化する  ※現在、各圏域で検討中			がん発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等が改善している	成人の喫煙率 (県健康・栄養調査)		がんに罹患する県民が減っている		
					(H28年度) ◆20～79歳 ・男性 27.4% ・女性 4.4% ◆20～30歳 ・男性 30.3% ・女性 7.1%				
					多量飲酒者の割合(男性は毎日2合以上、女性は毎日1合以上飲酒する者の割合) ※対象年齢20～79歳 (県健康栄養調査)				
					(H28年度) ・男性 11.9% ・女性 4.4%				
					適切に塩分を摂取している者の割合(1日摂取量8g以下の者の割合) ※対象年齢20～79歳 (県健康栄養調査)				
					(H28年度) ・男性 21.9% ・女性 36.9%				
					野菜を1日350g以上摂取する者の割合 (県健康栄養調査)				
					(H28年度) ◆20～79歳 ・男性 38.7% ・女性 29.3% ◆20代 ・男女計 24.3% ◆30代 ・男女計 33.3%				
感染症対策	県は肝炎ウイルスに対する正しい知識や肝炎ウイルス検査の必要性について普及啓発を推進する			未発見のB型又はC型肝炎ウイルス感染者数			がんに罹患する県民が減っている		
	県は子宮頸がん予防ワクチンの接種勧奨については、国の動向を注視し、適切な対応に努める				(H27年度末) 約5,500人				

第3期島根県がん対策推進計画 がん予防(二次予防)ロジックモデル(案)
★全体目標「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」

Table with 7 main columns: カテゴリ, 施策, 指標 (現状値, 目標値), 中間アウトカム, 指標 (現状値, 目標値), 最終アウトカム, 指標 (現状値, 目標値). It details cancer prevention strategies and metrics across different categories like '科学的根拠に基づく検診の実施と精度管理' and 'がん検診の受診率向上'.

第3期島根県がん対策推進計画 医療ロジックモデル(案)

★全体目標「患者本位で、将来にわたって持続可能な、しまねらしいがん医療の実現」

カテゴリ	施策	指標		中間アウトカム	指標		最終アウトカム	指標			
		現状値	目標値		現状値	目標値		現状値	目標値		
拠点病院の機能強化	県は拠点病院体制維持のために必要な施策を講じる	拠点病院機能強化補助金交付病院数		拠点病院体制を維持し、患者が適切な医療を受けている	免疫療法		医療が進歩していることが実感できると回答した割合				
		3	3					77.0%	80.1%		
	新指針により決定				チーム医療						
拠点病院の機能強化	島根大学附属病院は拠点病院の連携体制強化及び人材育成、医療機能の向上を図る	ネットワーク協議会及び大学が主催する各部会の開催		拠点病院体制を維持し、患者が適切な医療を受けている	リハビリテーション		医療が進歩していることが実感できると回答した割合				
		拠点病院等を対象とした各種研修会等の実施									
					支持療法を実施						
拠点病院の機能強化	地域拠点病院は拠点病院間及び地域の病院・診療所等との連携、医療機能の向上を図る	地域の病院等を対象とした研修会等の実施		拠点病院体制を維持し、患者が適切な医療を受けている	がんゲノム医療		医療が進歩していることが実感できると回答した割合				
					がんゲノム医療						
地域連携体制の強化	県は益田赤十字病院の地域がん診療病院指定に向けた支援を行う	緩和ケア専任医師の配置(～H31/2019)		拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化が図られている	地域がん診療病院の数		県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている				
	地域拠点病院は拠点病院間及び地域の病院・診療所等との連携、医療機能の向上を図る	地域の病院等を対象とした研修会等の実施			圏域内受診率						
	県は拠点病院から地域の病院へ患者が紹介されるように支援を行う	機能強化補助金(～H31/2019)			24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関(成人)						
地域連携体制の強化	県は地域の病院のがんチーム医療のレベルアップを行う	がんチーム医療レベルアップ事業(～H31/2019)		拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化が図られている	24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関(小児)		県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている				
	県と拠点病院は診療所や介護施設等を含めた医療機能分担が図られるための事業実施を検討する	H31年/2019年までの事業終了後に検討									
高度な医療等	県と拠点病院は高度な医療等へのアクセスが可能となる方法の検討を行う	コーディネーターの設置など		高度な医療及び個別医療等へのアクセスが可能になっている	納得のいく治療選択ができた患者の割合		医療が進歩していることが実感できると回答した割合				
					81.9%	84.5%					
		小児がん患者等の県外医療機関への受診に係る環境整備を検討				【再掲】生殖機能の温存等に関する情報が提供された40歳未満患者の割合					
		小児がんの長期フォローアップ提供体制について検討				42.7%					
高度な医療等	県と拠点病院は高度な医療等へのアクセスが可能となる方法の検討を行う	広域の拠点病院連絡会の実施を検討		高度な医療及び個別医療等へのアクセスが可能になっている			医療が進歩していることが実感できると回答した割合				

第3期島根県がん対策推進計画 緩和ケアロジックモデル(案)

★全体目標「患者本位で、将来にわたって持続可能な、しまねらしいがん医療の実現」

カテゴリ	施策	指標		中間アウトカム	指標		最終アウトカム	指標		
		現状値	目標値		現状値	目標値		現状値	目標値	
緩和ケア提供体制強化	県及び拠点病院は緩和ケアに係る研修会を行う	緩和ケア研修会を受講した医師の割合(拠点病院及び連携推進病院に対する独自調査)	78.0%	がん診療に携わるすべての医療・介護従事者が患者とその家族の身体的・精神的・心理社会的痛みに対応できている	「医療者は、患者のつらい症状にすみやかに対応していた」と回答した割合(遺族調査)	62.0%	患者やその家族の痛みやつらさが取り除かれ、生活の質が向上している	患者がからだの痛みがないと回答した割合(患者体験調査)	54.1%	57.4%
	県及び医療機関は医師以外で患者とその家族に関わる医療・介護従事者の研修を行う	研修会を受講した人数(要検討)	把握困難		痛みなく見通しをもって自分らしく療養生活を送れていると回答した割合(患者体験調査)	64.0%		患者が気持ちのつらさがないと回答した割合(患者体験調査)	54.8%	61.5%
	医療機関は痛みのスクリーニング(患者の痛みの把握)を行う	行っている施設数(拠点病院現況報告)	5施設							
	県は認知症のあるがん患者等への緩和ケアのあり方について検討する									
在宅緩和ケア推進	県及び医療機関は、地域で医療用麻薬を提供できる体制を整える	医療用麻薬を提供できる体制を有する医療機関(保健医療機能調査)	実施中	患者が住み慣れた場所(望む場所)で適切な緩和ケアを受けられている	「患者は望んだ場所で過ごせた」と回答した割合(遺族調査)	54.0%				
	県及び医療機関は圏域毎に在宅緩和ケア提供体制の強化を進める	ネットワーク事業に係る会議の開催回数(各圏域の実績報告)	9回							
意志決定支援	国の報告書(H30年3月予定)を待って検討する			患者とその家族が、自分らしく生きるために治療や療養生活を自己選択し、その状況に満足している	患者が個々のニーズに配慮され、尊厳が保たれ、切れ目なく十分な治療・支援を受けていると納得できている割合(患者体験調査)	79.60%				

第3期島根県がん対策推進計画 患者・家族支援ロジックモデル(案)  
★全体目標「尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」

カテゴリ	施策	指標		中間アウトカム	指標		最終アウトカム	指標			
		現状値	目標値		現状値	目標値		現状値	目標値		
相談支援の充実	県は、県内のがん相談支援体制の強化のため、島根大学医学部附属病院とともに国が提唱する統括相談支援センターを設置する	統括相談支援センター(島根県ではがん患者・家族サポートセンター)の設置数	1カ所	1カ所	患者が相談できる環境があると感じている	がんと診断された時、病気のことや療養生活に関する様々な疑問について相談する場があったと回答した患者の割合(患者調査問23)	患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している	現在自分らしい日常生活を送れていると感じていると回答した患者の割合(患者調査問45)	69.4%	72.1%	77.7%
	県、サポートセンター、拠点病院は県内のがん相談に関わる相談員(MSW、看護師、心理士等)の資質向上を行う	資質向上研修を受講した病院の割合		100.0%	相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている	がん相談支援センター利用者満足度(患者調査問34b)					
	拠点病院の医療提供者は、がん患者や家族へがん相談支援センターを周知する	がんと診断された患者へのがん相談センター紹介率(要調査)									
	相談支援体制の広域連携を図る(県・島根大学附属病院・拠点病院)	拠点病院のがん相談支援センター利用件数(現況報告別紙35)	6,591件								
情報提供の促進	県は、患者や家族に様々な手段により情報提供を行う(HP、SNS、サポートブック、がん関連図書等)				患者や家族が正しい情報を得られている						
	県、拠点病院、関係機関は、情報提供を患者の年代や生活環境等にかかわらず、わかりやすくかつ確実に実施を行うよう努める										
ピアサポートの充実	県、拠点病院、推進病院及び促進病院はピアサポート(患者サロン・ピアサポーター相談)の実施を推進する	ピアサポートを実施している病院の割合(要調査)			患者やその家族が、ピアサポートをうけることで悩みが軽減できている	ピアサポート利用者の満足度(要調査)					
		ピアサポート利用者数(要調査)									
社会生活支援の充実	県、サポートセンター、拠点病院はアピランス支援を行う	がん患者がウィッグ、補整下着購入した場合の助成事業の実施			患者が社会生活を罹患前と同じ程度に営んでいる						
		アピランス相談会の実施		5拠点病院							
世代別支援の実施	【小児AYA】県、サポートセンター、拠点病院は小児AYA世代患者の実態把握を行い、施策を検討する	小児AYA世代患者に対して実態調査の実施			【小児AYA】患者や家族が、相談できる環境が整っている	相談体制が整っていると感じている患者家族の割合(仮)					
	【小児AYA】県、サポートセンター、拠点病院は患者きょうだいのフォローや支援を検討する										
	【小児AYA】島根大学は小児・AYA世代患者の家族の付き添い支援を行う	入所児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」の運営			【小児AYA】相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている	不安や悩みが軽減されていると感じている患者家族の割合(仮)					
	【小児AYA】県は必要に応じて妊孕性温存のための施策の実施を検討する	妊孕性温存に関する情報が提供された40歳未満患者の割合	42.70%								
	【AYA】県は、療養中の高等教育のあり方について、関係機関と検討する				【小児AYA】患者が療養生活において保育・教育を受けられる環境が整備されている	保育・教育を受けられる環境が整備されていると感じている患者家族の割合(仮)					
	【働き盛り】県、がん相談支援センター、ハローワークはがん患者の治療と職業生活の両立支援を推進する	ハローワークの就職支援ナビゲーターによる相談件数			【働き盛り】患者が療養生活と仕事を両立できている	がん休職後の復職率(患者調査問27)	76.2%				
	【働き盛り】県、がん相談支援センター、産業保健総合支援センターは事業主の両立支援を推進する					治療と就労の両立のために勤務先から支援が得られたがん患者の割合(患者調査問26)	82.9%				
	【働き盛り】県はハローワークと連携して患者への復職モデル事業を行い、その状況について患者や事業主に対し発信していく	モデル事業の実施									
【働き盛り】県や拠点病院は働き盛りのがん患者の子どもに対して必要な支援を行う											
【高齢者】県、サポートセンター、拠点病院は認知症等を合併した患者に対し、必要な支援を行う				【高齢者】国が策定する「高齢者のがん患者の意思決定の支援に関する診療ガイドライン」により決定する							

